

保護者の皆様

札幌市教育委員会
札幌市学校医協議会

成長曲線の活用について

法令の改正により、学校における児童生徒の定期健康診断で行う必須の項目から座高の検査が削除されたことに合わせて、子どもの発育の状況を見るために、一人一人の身長と体重の記録を「成長曲線」というグラフにして、年齢ごとの発育の状況や変化を見ることが重要とされました。これまでも子どもの発育の状態については、内科学校医の先生が注意深く見てくれていましたが、成長曲線を活用することで、より正確に把握できるようになります。

このことを受け、札幌市では、平成 31 年度から「成長曲線」を作成して活用をすることとし、裏面の基準を用いて身長の伸びや体重の増減等について見て、対象となったお子さんの保護者の方へ「成長曲線」と「医療機関への相談のお勧め」をお渡しすることとしました。基準は、札幌市の小児内分泌専門医、札幌市医師会、札幌市小児科医会、札幌市学校医協議会、札幌市教育委員会で協議して決めた基準です。

※対象とならなかったお子さんには、お渡ししません。

※身長や体重のことについて、医療機関への相談が済んでいたり、家庭で状況を把握できているため、「成長曲線」や「医療機関への相談のお勧め」が不要な場合は、学校にお知らせください。

子どもの身長や体重の変化は思春期の訪れの影響を受けますし、思春期が訪れる時期は個人差が大きいため、グラフ上標準的な変化でないとしても、多くの場合は病気や異常ではありません。一方で、体の中の異常や病気が原因となって、身長の伸びや体重の増減に影響が及んでいることや、体重の増減が原因となって他の症状を引き起こすことも少なからずあります。

このようなことから、基準により対象となり、「医療機関への相談のお勧め」が届いた場合には、医療機関への相談について各ご家庭で検討いただくようお願いいたします。

医療機関で相談することをお勧めする基準と、グラフの例を裏面に示しますので、御確認ください。



医療機関への相談をお勧めする基準

それぞれ①か②どちらかに当てはまる場合に医療機関への相談を勧めます

1 身長

- ①年齢から見た身長がかなり低い場合
- ②身長の伸び方が小さい場合
※中高生の女子は除く

2 体重（肥満傾向）

- ①身長に対する体重がかなり重い場合
- ②体重が急に増えてきている場合

3 体重（やせ）

- ①身長に対する体重がかなり軽い場合
- ②体重が急に減ってきている場合

■ 数値基準 ■

1 身長 «中高生女子は、①のみ»

- ①身長の最新値が $-2.5Z$ スコア以下
- ②身長の最新値が $-1Z$ スコア以下で、
かつ、過去の身長 Z スコアの最大値に比べて最新値が $1Z$ スコア以上小さい

2 体重（肥満傾向） «全校種男女とも»

- ①肥満度 50%以上
- ②肥満度の最新値が+20%以上で、
かつ、過去の肥満度の最小値に比べて最新値が20%以上大きい

3 体重（やせ傾向） «全校種男女とも»

- ①肥満度 -30% 以下
- ②肥満度の最新値 -20% 以下で、
かつ、過去の肥満度の最大値に比べて最新値が20%以上小さい

※小学校の低学年では、学校で計測した身長や体重のデータが少ないため、グラフ上は、点や棒だけになっている場合がありますが、点や棒の位置を見ることで、お子さんの現在の状況について分かることもあります。

※医療機関へ相談する際には、母子手帳をお持ちください。

グラフについて

成長曲線を描くグラフには、もともと「基準線」と呼ばれる線が引いてあります。子どもの身長と体重の成長が標準的であれば、左のグラフに身長と体重の値を印してつないだ線が、基準線（身長は8本、体重は7本）の間に描かれ、また、この基準線に沿った曲線となります。

成長曲線で見たいのは次のようなことです。

- ・お子さんの曲線が、基準線の外に描かれていないか
（右下の身長のグラフに○で囲んだ部分）
- ・お子さんの曲線が、基準線をまたいで上向きになっていないか
（左の体重のグラフに○で囲んだ部分）
- ・お子さんの曲線が上に向かず横向きや下向きになっていないか
（右下の身長のグラフに○で囲んだ部分）

このようなグラフになった場合に、「医療機関への相談のお勧め」をお渡しすることとしました。成長曲線の見方は難しいので、学校の先生（保健室の先生でも）は詳しい説明ができません。お子さんの成長について詳しく知りたい時は、医療機関で相談をしてみてください。

